

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601993
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホームあいの里 (ユニット名 そよ風村)
所在地	福岡県久留米市山川安居野3丁目3番18号
自己評価作成日	平成23年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳納連山を望む筑後川に面した、のどかな田園風景が見渡せる環境にあり、家庭的な環境の下でその人らしい生活が送れるように支援しています。ご利用者様の今を大切に、要望を受け入れたり、行きたい場所に外出したり、季節に合わせた行事を行うことで四季を感じていただきながら、一緒に生活する喜びや楽しみを感じています。食事は委託している為、食事作りにとられる事なく、その分、ご利用者様との時間がゆっくりとれ、寄り添い安心して生活していただいています。食事の次ぎ分けや食器洗い等は、ご利用者様に出来るところを行ってもらったり、希望のある食事は、栄養士とも相談しメニューに取り入れたり工夫しています。月に1回は希望食としてご利用者様と調理をする時間を設けています。又、少ないですが、畑で採れた野菜等を食事の一品にしたり、漬物作りを行ったりもしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は賑やかな商業地域からほど近く、南に高良山、北に筑後川を望み広々とした田園が広がる場所に立地している。木の温もりのある平屋建ての2ユニットのホームで、広い敷地内にはデイサービスが併設されている。開設当初からの取り組みにより、地域との交流や協力が自然な形で毎日の生活の中に活かされており、利用者と職員は和やかな雰囲気の中で共に生活している。季節ごとのお花見や行事が行われ、利用者一人ひとりの趣味や希望に沿った職員との外出も多い。日常の家事や「くもん学習療法」等で利用者の力を活かしながら、入居前の暮らしが継続できるよう職員全員で理念の実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やミーティング等で理念の意義を見直したり、ご利用者と関わる中で日々共有し実践できるようにしている。	事業所開設時に職員、関係者で話し合い「地域交流や協力を大切に、家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活が送れるよう寄り添うケアをめざす」という理念を作り上げている。職員会議や勉強会で共有・意識づけを行い、日々の生活の中で実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している。又、夏祭りや文化祭には、地域の方々に出演していただいたり、積極的に参加していただいている。中学・高校生の体験実習も受け入れている。	地域の行事や祭りに参加し、体験学習や実習を受け入れ、日常の散歩や買い物で地域の人々と親しくしている。併設のデイサービスと合同の夏祭りや文化祭には地域の人々が多数参加し、演芸を披露してバザーや福引等で楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学時等、グループホームを紹介・説明をさせていただき、理解を得よう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご利用者の状況報告や行事報告を行っている。市役所・包括・ご家族・民生委員等に参加していただき、様々なアドバイスや意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	利用者、家族代表、民生委員、地域包括支援センター、市役所職員等の参加で2ヶ月に1度定期的に開催し、事業所の取り組みや現状、行事計画や報告等を行っている。運営に関する意見や離園者対策のGPS使用等の助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議時に、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を話している。分からない事や疑問に思ったりしたことは、その都度、連絡や相談を行っている。	法人代表が市の窓口を訪問したり、日頃から事業所の取り組みについて情報交換を行っている。また分からない事や困った事がある時はその都度電話で相談を行い、適切な助言を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会を行ったり、研修に参加している。職員間でも日常生活の中で拘束とならないよう話し合い理解している。日中は、自由に出入りできるようにしている。	管理者や職員は外部研修や関連ホームの合同研修で学習する機会を持ち、拘束の弊害について理解を深めている。命令口調にならないよう言葉かけに注意し、日中の自由な外出を支援し見守りのケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会等で報告する機会を設けている。又、虐待について十分に理解し虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出前講座を活用し、成年後見人制度についての勉強会を行った。又、家族会の時に、成年後見人制度について紹介したり、玄関にも日常生活自立度・成年後見制度のパンフレットを設置をし情報提供をしている。	管理者や職員は講師を招いての合同研修会に参加し、制度について学んでいる。家族には入居時や家族会で制度について説明している。玄関にパンフレットを設置し、必要な時には助言できるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用契約書・重要事項について十分に説明を行い、理解・納得をしていただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者との日頃の何気ない会話や面会時にご家族との会話から希望や要望を聞き、職員間で話し合い生活に反映できるようにしている。	玄関に意見箱を設置し、家族の訪問時に話を聞いたり、家族会で家族のみで話し合う場を設け意見を聞くようにしている。利用者からは月に1度の常会や日頃の会話の中から意見を聞き、職員で話し合い運営や個別ケアに活かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや会議において意見交換を行っている。	管理者は意見や提案を言いやすい雰囲気作りに努め、毎日のミーティングや職員会議で意見を聞いている。出された提案や意見は職員会議で話し合ったり、月2回行われる法人の全体会議に報告・提案を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務について希望があれば調整し働きやすい環境を整えている。又、各自が向上心を持って働けるよう担当を決めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用に当たっては、上司に一任している。職員については、得意分野が活かせるような環境作りに努めている。	職員の採用は法人で一括して行われるが、年齢、性別等による排除はない。職員の能力を活かせるよう取り組み、勤務調整して資格取得も支援している。家族介護等に長期休暇も利用できるよう配慮し、働きやすい環境作りがなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において接遇マナー・人権の勉強会を行っている。	法人の全体研修やグループホーム合同の研修で人権や接遇について学び、日頃のケアの中で利用者の尊厳やプライバシーを守り、利用者の主張や思いを大切にしよう声かけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部の研修会には職員のケアの実際と力量等を把握し、できるだけ参加できるようにし育成に役立てている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者交流会やグループホーム部会に参加し意見交換や勉強会の機会を通じてサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前面接等を行い、ご本人との会話の中から不安や要望等を聞きだせるよう努め、又、体験での入居も行い、安心してサービスが受けられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは面会時やご利用者の状況報告等を報告し、必要時は電話連絡を行っている。又、要望や不安な事は相談にのったり、ご意見箱を設置している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中でご本人やご家族の意向等から何が必要かを見極め、必要に応じ他のサービス等を提供し最善の選択ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事や能力等を生活の中で反映し共に行うことで良い関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況報告を2ヶ月に1回送付し面会時には情報交換を行い共にご利用者を支援できる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの人や場所をご本人やご家族に尋ね、関係が途切れないよう支援している。又、主治医も在宅より継続している。	入居前のかかりつけ医を継続し、家族の協力で行きつけの美容室やお店へ買い物に出かけている。また、デイサービスで知人・友人と交流したり、孫の結婚式や法事出席の外出を援助し、以前の関わりやふれあいを保てるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握しご利用者間とのトラブルにならないように配慮している。トラブルになりそうな時は、職員が介入し対応している。孤立しないよう職員が会話の中に入ったり、声かけを行い支援もしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族より近況報告を得たり、他のサービス機関と情報交換等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中から要望を聞き、話し合いながら、活かせるようにしている。困難時には、ご本人にとって良い状況を考えて支援している。	日常の暮らしや会話の中から、困っている事、願っている事、したい事など、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思表示困難な方には表情やしぐさなどから読み取り、家族の了承を得て本人本位に対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方や、関わってきた事業所より情報を得たり、ご本人の会話から生活歴を把握をし、サービスに活かせるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況、状態について申し送りや記録等を通し職員間で情報を共有し、現状の変化に対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望に沿ってミーティングや会議で検討をし、介護計画を作成している。	介護計画は担当職員が本人や家族から要望を聞き、かかりつけ医の助言も取り入れて素案を作成し、ケア会議で職員全員で意見交換し作成している。毎月モニタリングをして3ヶ月ごとに評価を行っているが、短期目標の期間ごとの計画書が確認できない。	3ヶ月ごとの評価に基づき、また、地域でその人らしく暮し続けるために必要な支援を盛り込んだ計画書作成が望ましい。介護計画について、今一度の検討をする機会を持つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェックやケース記録等に記入をし、職員間で情報を共有し見直しを行い統一したケアができるように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族と相談しながら、職員間で話し合い多面的な支援ができるよう努めている。体験入居等も受け入れ取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事やボランティアの慰問を受け入れ楽しみながら暮らせるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切し、基本は、家族の方に受診をしてもらい、急変時や体調不良時は、職員が付き添い受診を行っている。ご家族が困難な場合は、往診を依頼したり、連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に、家族の支援で受診している。日々の状態を受診ノートに記入し受診時に家族に持参してもらっている。家族が受診に付き添えない時は職員が同行し、受診結果は随時家族に報告している。また、家族と主治医の話し合いで往診を受けることもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察の中で、気づきや変化等看護師に報告や相談を行い、必要に応じ、受診をおこなったり、主治医と相談をし、指示を仰ぎながら支援をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係との情報交換を行ったり、お見舞いに行き、状態によって、担当医と相談を行い、早期退院に向けて支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期について説明を行っているが、看取りの際は、ご本人、ご家族、主治医と話し合いを行い、看取りが出来るように往診や訪問看護といった体制を整えたりし、事業所で出来る事を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、重度化や看取りに対応できるように、往診や24時間の訪問看護等の連携体制を整えている。看取りの希望がある時は、本人、家族、主治医とともに今後の方針を十分話し合い、納得した支援が受けられるよう対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや事例を通し勉強会を行っている。会議のさいには、看護師からの指導や説明を受け急変時に対応ができるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、昼間想定と夜間想定を行い、年に1回は消防署の立会いの元行い、指導を仰いでいる。又、近所の方々にも参加をしてもらっている。	消防署や近隣住民参加で年2回、昼と夜間想定 の火災通報、消火、避難訓練を実施している。緊急時対応マニュアルがあり、職員は避難経路や避難場所を熟知している。災害に備えて2週間分の食料が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重をした言葉かけを行うように心がけている。また、誇りやプライバシーを損ねないように配慮した声かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの生活歴や性格に配慮し、利用者に沿った声かけや言動に努めている。排泄や入浴時の羞恥心への配慮は勿論、同じ目線でのケアを心がけている。またプライバシーに関する研修も実施している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で思いを表せるような環境や雰囲気づくりをしている。また、選択の方法をとったりして自己決定ができるように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まり事や計画にとらわれず、ご利用者のペースに合わせ、思いを受け止め、希望に添って支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みを尊重し自分で選んでいただいたり、外出時や行事の際には、化粧をしたり、毎月ケアステーションに訪問してもらい希望に応じて利用してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房に委託しているが、次ぎ分けや食器洗い等できることに参加してもらっている。月1回は希望食を行い、利用者と共に野菜の切り込みや畑で出来た野菜を漬物にしたり、活躍できる場面を作っている。	職員は利用者と一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができている。利用者の個々の力を活かしながら食事の後片付けや中庭に栽培している野菜の収穫を行っている。利用者と一緒に梅ジュースやらっきょ漬け、梅干作りを行い、誕生日は手作りのケーキでお祝いをする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者一人ひとり食事摂取、水分量状況の把握し、不足している際は、栄養士等と相談しながら栄養バランスを考慮したメニューを取り入れたり、食事形態を変更し、状態に応じ対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要時は介助をし口腔状態の観察を行い、要望があれば歯科往診を依頼している。年1回は、定期健診を行ってもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用していても、個々の排泄パターンを把握し、トイレに座る機会を作り、布パンツに替えられるよう検討し、自立に向けた支援を行っている。	排泄時間やその状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへ誘導している。オムツ不要になった方もおり、パンツ、紙パンツ、パットなど状況に合わせて使用し、自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取りこんでもらったり、水分補給をこまめに行っている。また、散歩や体操等、適度な運動を行い便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っているが、本人の状態や希望に応じ、個々に合わせた入浴を行っている。また、菖蒲湯やゆず湯等季節の香りを楽しんでいただいている。	元旦以外は毎日入浴ができる。広い浴室から外の景色を眺めながら湯船につかり、温泉気分で入浴ができるよう浴室の内装も工夫されている。利用者は毎日の入浴を楽しみにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や外出等することで外気に触れ、夜間良眠に繋げている。不眠時には、話を聞いたり、寄り添い安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服について把握し、変更時には、申し送りをし記録している。服薬後の状態観察を行い、異変時には、早期対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている能力を発揮できるよう家事・掃除等役割をもつことで張り合いに繋げている。又、趣味や生活暦を把握し、その人らしい生活ができるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日散歩に出かけたり、買い物や季節に合わせた外出行事を行っている。昨年は、ご家族に協力してもらい日帰り温泉に出かけたりと戸外に出る機会作り取り組んでいる。	散歩をかねて近くのお宮へお参りに行く。季節ごとに花見に出かけ、買い物や外食の希望には個別に対応している。日帰り温泉に出かけたり、利用者の家族のオープンガーデンを見に行ったりと、利用者が事業所内だけで過す事がないよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が難しい方は、ご家族より所持金を預かり希望時に使えるよう管理している。持っていないと不安な利用者は、ご家族の了解を得て少額持ってもらい職員が時々確認を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるようにしている。ご家族や知人に年賀状を出したり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に陽射しが入り過ぎないように工夫したり、玄関や洗面所等には季節の花を飾ったりして居心地よく過ごせるよう支援している。	玄関、廊下、リビング洗面所等、いたる所に手作りの飾り物や季節の花が活けられ、落ち着いた雰囲気の中に優しさがあふれている。利用者が過ごすリビングにはくつろげる量の空間もあり、テーブルや椅子が使いやすく配置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でソファに腰かけて話されたり、縁側やテラスには、テーブルや椅子を準備をし自由に過ごせるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの家具等持参していただき、本人が居心地よく生活できるよう支援している。	居室は明るく窓から外の景色が眺められる。使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、今までの暮らしを大切に居心地よく生活できる工夫がなされている。また、家族の写真、文化祭の作品などが飾られ、落ち着いた部屋になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下には、手すりも設置しシルバーカーや車椅子での移動できる余裕のあるスペースもあり、安全に配慮している。自立に向けた支援ができるよう工夫している。		